

## 埼玉版スーパー・シティプロジェクト庁内推進会議（令和２年度第１回）

### 1 日時

令和２年７月７日（火） 9：15～9：40

### 2 会場

危機管理防災センター２階 本部会議室

### 3 出席者

[委員]

大野知事（議長）、砂川副知事（副議長）、橋本副知事、  
高木警察本部長、高田教育長、高柳公営企業管理者、岩中病院事業管理者、  
今成下水道事業管理者、小島知事室長、堀光企画財政部長、北島総務部長、  
山野県民生活部長、森尾危機管理防災部長、小池環境部長、山崎福祉部長、  
関本保健医療部長、加藤産業労働部長、強瀬農林部長、中村県土整備部長、  
濱川都市整備部長、板東会計管理者、下田議会事務局長、村田監査事務局長、  
阿部人事委員会事務局長、奥山労働委員会事務局長

[事務局]

安藤環境未来局長、石塚環境部参事兼エネルギー環境課長

### 4 議事概要

#### (1) 開会

（小池環境部長）

ただいまから、令和２年度第１回埼玉版スーパー・シティプロジェクト庁内  
推進会議を開催いたします。

初めに、知事からご挨拶をお願いいたします。

#### (2) 議長（知事）挨拶

（大野知事）

皆さんお疲れ様でございます。

「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」については、知事直轄プロジェクトに指定していますが、この取組を部局横断的に推進していくため、この会議を開催することとしました。

本県は間もなく人口減少に転じ、全国一のスピードで後期高齢者人口が増加する一方、生産年齢人口の減少が進み、誰も経験したことのない超少子高齢社会に突入する、こういう変化に直面してまいります。

私は、そのために手を打たなければならないと考えていますが、その有力な手段がコンパクトシティと考えており、埼玉版スーパー・シティプロジェクトは、この取組を核に、AI、IoT、5Gといった超スマートな新技術を活用しながら、エネルギーの利活用などにより、市町村とともに、強靱性の高いま

ちづくりを志向していくものであります。

この取組を進めることで、例えば、職住近接のまちの中で、ワーク・ライフ・バランスや子育て、高齢者の見守りなどの地域課題の解決が図られるとともに、将来必ず逼迫するであろう行政コストの低減が図られ、環境を含め地域社会の活性化につながっていくものと考えます。

既に先行している東京都では、ほとんどの再開発においては熱利用の検討が義務となっていて、埼玉県は、そういった意味では「スーパー・シティ」的な要素が欠けていると思います。

「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」は、本県が今後直面する課題に対する戦略であり、ビジョンであると思っています。

そのため、部局横断的にすべての部局がこのプロジェクトに取り組み、連携してその推進を図っていただきたいと思います。

先ほど東京都の話申し上げましたが、例えば工業団地等についても、実は東京都ではまさに分譲に際して、そういった条件を付しています。

まちづくりは数年で簡単に行えるものではありませんが、だからといって、ここで行動を起こすのと起こさないのでは、10年後、20年後、30年後としてみたときには大きな変化があると思っています。そのときに少子高齢化やあるいはそれぞれのまちの中で、いわゆるまちがバラバラになってしまう、こういった状態のコストを将来支払わねばならないことについて看過できません。したがって、今から進めることをやはり考えていきたい。

今後の各部局の施策、各事業の検討にあたって、「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」を皆さんの部局における検討課題として認識していただき、積極的に取り組んでもらいたいと思います。

皆さんの様々な分野の知恵を結集し、全庁一丸となって将来を見据えた「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」を推進していただきたいと思います。

以上です。

(小池環境部長)

はい、ありがとうございます。それではただいまから議事に入りたいと思います。庁内推進会議設置要綱第4条に基づき、議事の進行は知事にお願いいたします。

### (3) 議題(事務局説明)

(大野知事)

はい、それでは進行を務めさせていただきます。議題「埼玉版スーパー・シティプロジェクトについて」説明を求めます。

(安藤環境未来局長)

はい、環境部環境未来局長の安藤と申します。よろしくお願いたします。埼玉版スーパー・シティプロジェクトにつきまして、ご説明をさせていただきます。

(会議資料 1 枚目)

大野知事の公約であります、埼玉版スーパー・シティプロジェクトにつきましては、昨年 11 月に工程表を作っていく中で、基本的なコンセプトについて知事との間で考え方のすり合わせを行いました。

これを踏まえまして、プロジェクトを進めるにあたり、現状認識や重要な視点などを 3 つのキーワードで整理させていただいたところがございます。

1 つ目が「コンパクト」。これから 2040 年、2050 年の将来を見据えた場合に生じる、様々な行政課題の解決を考えると、これからの「まち」のあり方として、コンパクトシティが不可避です。このプロジェクトではコンパクトシティを中心に置いていきたいと考えております。

このコンパクトシティに、2 つ目、3 つ目として「スマート」、「レジリエント」を加えます。

近年、本県でも地震や台風、竜巻、大雪など災害に多く見舞われております。長期的な視点に立つと、まちづくりにおいては災害に備えた強靱性の確保が必要です。

今後の方向性については、右に記載させていただいたとおりで、コンパクトシティが究極の目指す姿でありますことから、県は、市町村に寄り添い、一体となってまちづくりを進めてまいります。

また、まちづくりという壮大なプロジェクトは、行政で取り組むことには限界があります。社会経済の広い分野から民間のアイデアを取り込み、連携協働していくことが不可欠です。

(会議資料 2 枚目)

ここでは、コンパクトなまちづくりを行うことで様々な行政課題が解決できる理由を簡単に説明させていただきます。

市街地が拡散した状態のまま、人口減少、少子高齢化が進んでいくと、医療・福祉・商業等の生活サービスの低下、企業の撤退や空き店舗の増加、社会保障費の増加などの課題が深刻化していきます。

そこで、まちのコンパクト化を図り、限られた資源を集中、効率的に利用することで、地域社会の活力を維持し都市機能を持続していくことができます。

例えば、コンパクトなまちで、徒歩で生活が可能となれば、住民の健康増進に資することができます。その結果、社会保障の負担は軽減され、CO<sub>2</sub>排出などの環境負荷低減にもなります。

このようにコンパクト化は、長期的には行政コストの削減にもつながる重要な意義があることをご理解いただければと思います。

(会議資料 3 枚目)

このコンパクトシティの考え方は以前から提唱されながら、実際にはなかなか思うように進みませんでした。その原因を考えると、市町村にとって魅力あるインセンティブが提示できなかったからではないかと思われます。

そこで、高齢者福祉、子育て、健康づくり、商店街活性化、学校教育等々、まちづくりの各分野について様々な支援策を構築、提案していくことが、この

プロジェクトの特長になると考えます。

これが①にあるインセンティブメニューで、各部局において積極的な関わりをお願いしたいと思います。

以上をまとめると、埼玉版スーパー・シティプロジェクトは、最終的には「超少子高齢社会の様々な課題解決」が究極の目的であり、長い時間がかかる「コンパクトシティの形成」を「視野に入れ」つつ、「まずはリーディング街区をつくり、将来のまちの姿を多くの皆様に見てイメージしていただく」プロジェクトであると言えます。

(会議資料4枚目)

リーディング街区の形成イメージですが、まず、左の箱の部分、土地区画整理や市街地再開発、工場跡地といったフィールドがあり、市町村はその土地の状況を熟知しているものと考えます。

真ん中の箱の部分、2040年、2050年の将来に、わが市町村ではどのような分野が課題になり、あるいはこの分野を特徴的に売り出したい、というような考えが市町村にはあるはずです。

これを掛け算することで、市町村が主体で県が支援する、地域特性に応じた様々なバリエーションのあるリーディング街区が出来てきます。

一方、市町村支援ばかりではなく、県が主体的に進めることができる施策を並行して検討していきます。

例えば、工業団地を核としてエネルギー融通ができないかとか、再生可能エネルギーの導入余地がないかなど、様々な可能性を検討していきたいと考えております。

(会議資料5枚目)

これは神奈川県藤沢市の Fujisawa SST (サスティナブル・スマートタウン) の説明です。

旧松下電器産業の工場跡地であり、駅からは2.5 km くらい離れています。

ここに600戸の戸建住宅のほか、マンション400戸、高齢者福祉施設、カルチャー施設などが配されています。

高齢者福祉施設に親が入居し、子どもや孫が戸建住宅に住むことで、いつでも顔を見に行けます。

また、防犯面にも配慮され、まちの魅力を高める特徴的な仕掛けや工夫が見られます。

このようなまちが、魅力的なリーディング街区のイメージに当たるものと考え、例としてお示したところでございます。

(会議資料6枚目)

リーディング街区をつくっていくには、いかに魅力的なインセンティブが多く用意できるかが重要であると考えます。

リーディング街区に限定して、他の場所よりも手厚い支援が県としてもできないかと考えておりますが、財政的な制約もございます。

そのため、インセンティブメニューの構築にあたっては、国の制度も最大限に活用していきたいと考えております。

資料には、国のまちづくり制度を例にとった取組を示しております。このような各省庁の制度を活用しながら、支援メニューを構築していきたいと考えております。

各部局でも、県単事業の組立のほか、国への要望、特区の提案など、ぜひ知恵を出していただけるよう、ご協力をお願いしたいと思います。

(会議資料7、8枚目)

最後に、今後のスケジュールについて説明させていただきます。

これまで、企画財政部、環境部、都市整備部を中心に検討を進めてきたところですが、本日の会議を契機に、全庁体制でさらに検討を進めてまいりたいと考えております。

今後は、特に関係の深い課によるプロジェクトチームを設置し、プロジェクトの考え方についての検討を深めてまいります。

プロジェクトチームの構成課については、現時点では次の8ページのように考えておりますが、検討の進み具合に応じて、さらに幅広く参画をお願いしていくことを想定しております。

今年度のゴールは、3月末にある「プロジェクトの骨格」の策定、公表と考えております。

この骨格を示すことで、県内各市町村では、県が考えている長期的なまちづくりのあり方やインセンティブを理解し、自分事として取り組むようになるものと考えております。

また、この骨格は、民間事業者などに対しても県の姿勢を示すことで、事業者側の具体的な関わり方がイメージできるようになって、投資意欲の喚起につながるものと考えます。

行政だけの考えでは限界がありますので、あわせて、都市計画やエネルギー分野などの専門家による有識者会議や、民間コンサルタントへの調査委託、市町村の意見聴取などを行い、地に足の着いた内容にしていく予定です。

以上で、埼玉版スーパー・シティプロジェクトについての説明を終わらせていただきますが、各部局におかれましては、2040年、2050年における埼玉県を見据え、自らの行政分野がどうなるのか、また、どうあるべきかを念頭に置いていただき、特にインセンティブメニューの開発などで、積極的に関わっていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

どうぞよろしく願いいたします。

#### (4) 議題(質疑応答)

(大野知事)

はい、安藤環境未来局長ありがとうございました。それでは、ただいまの説明事項につきまして、ご意見、ご質問をお願いいたします。

山野県民生活部長、どうぞ、お願いします。

(山野県民生活部長)

ご説明ありがとうございました。最終ゴールのイメージとしては、「リーディング街区を見える化する」とあり、市町村のまちづくりに寄り添うということで、例として藤沢市の Fujisawa SST を出しているけれども、そうすると、市町村のどこかで民間開発を行って、まずはリーディング街区を作ることが当面の課題ということでしょうか。

(大野知事)

それでは安藤環境未来局長お願いいたします。

(安藤環境未来局長)

お話のとおり、「見える化」ということが当面の課題でございます。その先には市町村全体のまちづくりを見据えておりますので、本当にそれが、単なる打ち上げただけのものなのか、見極めていきたい、コンパクト、スマート、レジリエントが加味されているか、その辺を見ていながら、いろいろなことを調整していきたいと考えております。

(大野知事)

はい、ありがとうございました。よろしいですか。他にご意見、ご質問ございますでしょうか。

はい、それでは村田監査事務局長、お願いします。

(村田監査事務局長)

はい、それでは質問させていただきます。例として Fujisawa SST を挙げていらっしゃるけれども、県内でその目のある期待のもてるエリアはあるのでしょうか。

(大野知事)

安藤環境未来局長お願いいたします。

(安藤環境未来局長)

候補地のお尋ねですが、なかなかこれについては、地元市町村等への調整もありますので、この場で具体的なことは申し上げられませんが、基本的には市町村の方からいろいろなところを聞き出していくことが必要と考えているところでございます。

(大野知事)

はい、ありがとうございます。私の方から補足させていただくと、スーパーシティは完成系として提示することはなかなか難しいけれども、地域としてニーズがあるところに我々がどういうメニューを出すかによって、ぐっとコンパクト、レジリエントなまちをつくれる可能性は高まってくると思います。

日本全国を見てもそうですが、完璧なスマートシティはありません。それぞれメニューを提示していく中で、いろいろ考えていくことが大切なのだろうと思います。

ついでに申し上げておくと、スーパー・シティは都市部でできるというイメージであって、郊外部ではそんなことはできないだろうという話もありますが、一方で、郊外部に行けば行くほど、例えば空き家対策や高齢者の見守り、子どもが生まれても育てる環境にないとか、それから、職住があまりに離れていて結局若い人が出て行ってしまふ、そういった問題があろうかと思っています。

そういった意味では、都市部の方がやり易いということは確かに事実ですが、郊外部においてはその投資効果が現れる、その効果が大きい、そういったことがあります。

そこはぜひ皆さんの知恵をいただきたいと思っています。ただ、決して都市部を避けるのではなく。皆さんの知恵をいただきながら進めたい。

補足は以上です。

失礼しました。他にございますでしょうか。はい、それでは質問はないようですので、これで終了といたします。進行を小池環境部長にお返しします。

#### (5) 閉会

(小池環境部長)

はい、ありがとうございました。

最後に、知事から何かもう一言ございますか。

(大野知事)

とにかく皆さんのお知恵をいただきたいと思っています。

もしかすると私が知事でない間に実現するのかもしれない。でもそれくらい感覚でないと、埼玉県の地域の中には見捨てられるところも出てきてしまうので、ぜひお知恵をいただきたいと思います。

(小池環境部長)

はい、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和2年度第1回の埼玉版スーパー・シティプロジェクト庁内推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。

以上